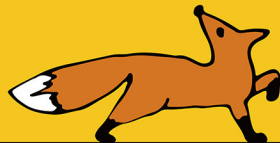


ムシ



の 居所 が 問題 だ

エキノコックスとの付き合い方



第108回
サイエンス・カフェ札幌

2019. **8.4.** sun. 14:30-16:00

紀伊國屋書店札幌本店 1F インナーガーデン

ゲスト | 野中 成晃 (のなかなりあき) さん
北海道大学 大学院獣医学研究院 教授
聞き手 | 池田 貴子 北海道大学 CoSTEP 特任助教
主催 | 北海道大学 CoSTEP

コーヒー片手に
科学の話をしよう



このイベントは、JSPS 科研費 JP19K14339
(代表者 池田貴子) の助成を受けたものです。

入場無料
申込不要

<https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp>

北海道には「エキノコックス」という“ムシ”が棲んでいます。彼らは、キツネとネズミのからだを主なすみかとする「寄生虫」です。まれにヒトの体内に入り込み、約 10 年間の潜伏期間を経て重い肝機能障害等を引き起こします。治療が難しいため、キツネからうつる寄生虫として北海道では古くから恐れられてきました。特に近年では、札幌のような大都市でもキツネが人を恐れず住宅地に出てくるようになり、私たちのエキノコックス感染リスクは高まっています。

「エキノコックスの卵が含まれているかもしれないので、沢の水はそのまま飲まない、山菜は十分に加熱して食べる」といった日常的な対策はとても大事ですが、それだけでは身の回りのリスクは下げることができません。そこで、野生のキツネに虫下し入りのエサを食べさせるというエキノコックス撃退法が開発されました。この方法は、現時点で最も有効なエキノコックス対策とされています。一方で、効果を持続させるためにはお金も手間もかかる、というデメリットがあり、さらに環境中に薬剤をまくことによる生態系への影響は未知数です。そのため、どこまでこの方法を進めるかは、専門家だけでは決められません。

また、人間にとっては「病原体」のエキノコックスですが、キツネには大きな害は及ぼしません。エキノコックスは、他の動物のライフサイクルに適応して進化してきた野生動物の一種でもあるのです。今回のカフェでは、寄生虫の疫学を専門とする野中成晃さん（獣医学研究院 教授）をお招きし、エキノコックスという動物と我々はどう付き合っていくべきか、みなさんと一緒に考えていきます。



野中 成晃（のなか なりあき）さん

北海道大学大学院 獣医学研究院 寄生虫学教室 教授。博士 (Ph.D.) (米国ミシガン州立大学)、獣医学修士 (北海道大学)。エキノコックスをはじめ、動物の体の中に寄生する寄生虫や、動物とヒトの両方に感染する人獣共通感染症の疫学を専門とする。2019年3月まで宮崎大学農学部獣医学科教授。4月から古巣の北海道大学獣医学研究院教授に着任した。寄生虫学に興味を持ったきっかけは、常に雌雄がセットで生涯を過ごす日本住血吸虫の生態に人生哲学を感じたこと。

今回のサイエンス・カフェ札幌

ゲスト : 猪熊 泰英 さん 北海道大学大学院 工学研究院 准教授
日 時 : 2019年9月15日 (日) 14:30 ~ 16:00
会 場 : 紀伊屋書店札幌本店 1F インナーガーデン

Key
word

有機化学
分子
「カルボニルひも」

主催

北海道大学 高等教育推進機構 オープンエデュケーションセンター
科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP / コーステップ)

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 phone 011-706-5320
<https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp> e-mail costep_office@ml.hokudai.ac.jp

CoSTEP は、科学技術の専門家と市民の橋渡しをする人材を育てる教育研究組織です。

